

4 忍者を核とした観光拠点整備のコンセプトと基本的な考え方

(1) 忍者を核とした観光拠点形成のコンセプト

リアル忍者の歴史・文化、生活等を広く伝え、来訪者がリアル忍者に関心を抱き、市内の日本遺産構成文化財やその他の市内観光施設へ訪れたいとなるような観光拠点づくりを目指し、観光拠点のコンセプトを次のとおり設定する。

【観光拠点施設形成のコンセプト】

リアルな忍者を求めて甲賀を旅する起点の創出

【コンセプトの基本的な考え方】

- 1 リアルな忍者を求めて甲賀市にやってくる来訪者の知的欲求を満たし、忍者体験等のワクワクする楽しみを見つけ、更なるリアルな甲賀流忍者の探求の旅に出たいとなる観光拠点を創出する。
- 2 甲賀流忍者に対する国内外からの来訪者の関心の高さに触れることにより、地域住民が忍者に対する認識を新たにし、忍者を誇りに思うようになる拠点を創出する。
- 3 コンセプトの実現のために期別による整備を進め、よりリアルな甲賀流忍者の姿を伝える拠点を創出するとともに、市内の忍者関連施設とのネットワーク形成を推進し、甲賀市の忍者観光の魅力向上に係る相乗効果を高める。
- 4 甲賀市全域を対象に、観光資源とのネットワークを積極的に形成し、観光客の甲賀市での滞在時間の増加を図ることにより、地域経済の底上げに寄与する拠点を形成する。

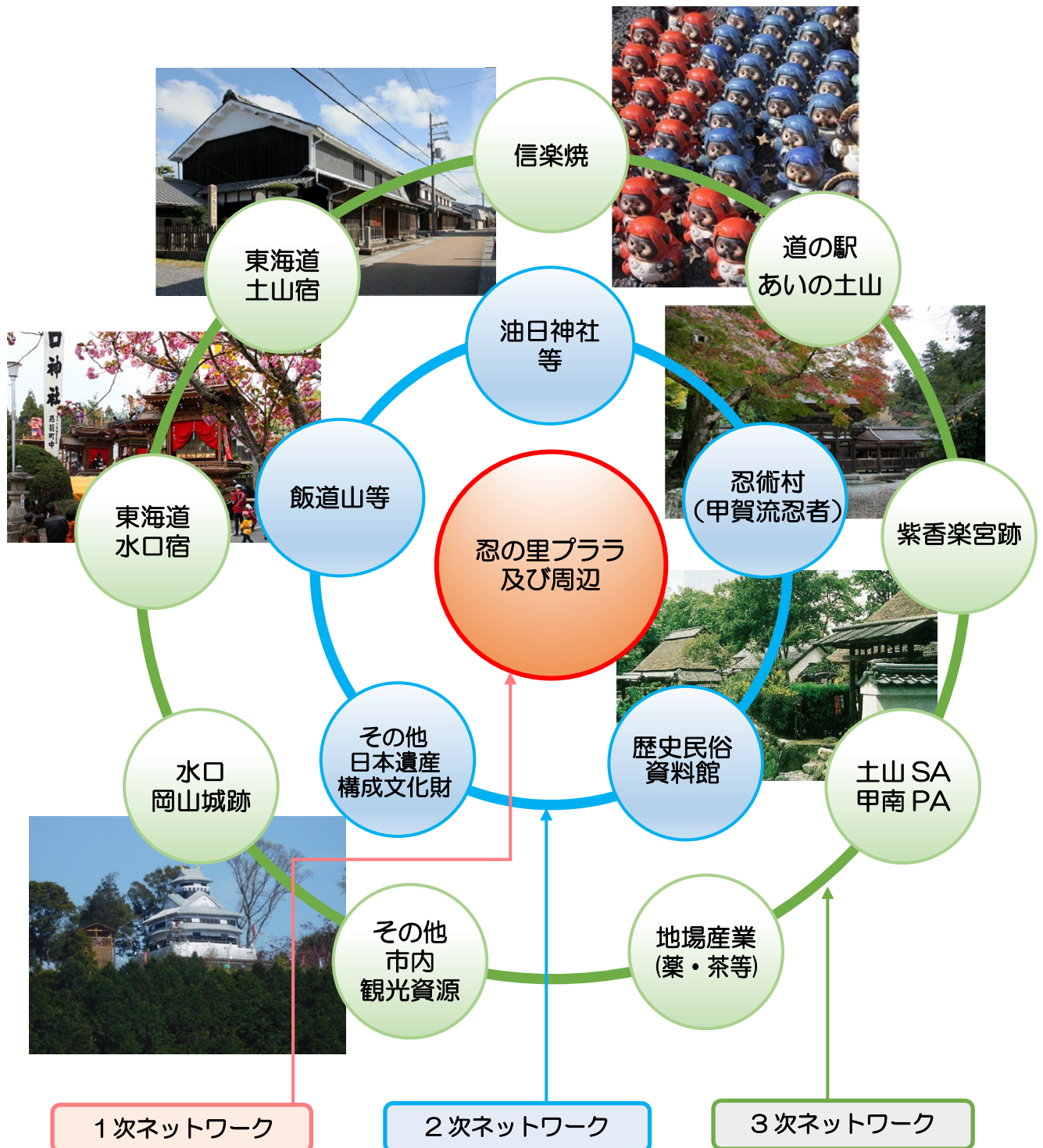
（２）観光資源ネットワークの形成及び観光拠点施設整備における期別整備の基本的な考え方

地元の忍者史料の発掘や展示方法、また、施設周辺地域内の施設間ネットワークや市内全域の観光資源とのネットワーク形成に至るまで、相当の期間を要するとみられることから、以下の基本的な考え方に基づき、観光資源ネットワークを１次から３次までの段階を経て形成する。また、１次ネットワーク形成の柱である観光拠点施設（周辺）整備について、期別の整備計画を設定する。

① 観光資源ネットワーク形成の基本的な考え方

ネットワーク	観光資源ネットワーク形成の基本的な考え方
１次ネットワーク	・ 市民が甲賀流忍者、甲賀武士のことを学び、知り、誇りに思える、また来訪者への日本遺産「忍者」の情報を提供できる拠点を整備し、その周辺地域である甲賀流忍者の里竜法師地区内を周遊するルートを創出する。 ・ 竜法師地区内の歴史・文化資源等とのネットワークを形成するとともに、拠点施設においてレンタサイクル等の移動手段を確保し、拠点が甲賀市観光の起点という位置づけを確立する。 ・ 貴生川駅を公共交通の玄関口ととらえ、観光案内機能や待合スペースなどの観光客の受け皿としての整備を図るとともに、甲南駅も含めてレンタサイクルの乗り捨てを可能にして自転車利用を拡大するなど、様々な交通手段で観光拠点地区への来訪を促進するネットワークを形成する。
２次ネットワーク	・ 拠点施設においてよりリアルな甲賀流忍者を知りたくなる情報を来訪者に提供し、来訪者が甲賀流忍者関連の歴史・文化資源を周遊することを促進するため、これら歴史・文化資源との連携を深めるとともに、日本遺産構成文化財を有効活用した忍者資料展示施設の設置を検討する。 ・ 日本遺産構成文化財に位置付けられた「油日神社」や「飯道山」、「水口岡山城」など、地元の理解と協力のもと拠点施設との連携を深め、リアル忍者の追体験の場として来訪者を誘導する。 ・ 観光バス会社や旅行会社に働きかけ、拠点施設から他の甲賀市内の日本遺産に位置付けられた歴史・文化施設等をはじめ、東海道の散策や東海道宿場に立ち寄るルートを設定する。
３次ネットワーク	・ 最終目標は甲賀市内全体の観光振興と捉え、多くの甲賀流忍者ファンをはじめ、信楽（信楽焼・紫香楽宮）、東海道観光をきっかけに甲賀市にやってくる観光客の波及効果を最大限に活用する。 ・ 市内の観光施設や地場産業店・飲食店等とのネットワークを構築し、拠点施設との連携を深めることにより、「リアル忍者」をキーワードとする忍者観光のまちづくりを確立する。 ・ 多くの観光客を集める「田村神社」や「陶芸の森」とのネットワークを構築し、来訪者の相互の行き来を促進する。

【図 観光資源ネットワーク形成イメージ図】



② 施設整備の基本的な考え方

観光資源ネットワーク形成時期と整合を図りながら、以下の基本的な考え方に基づき、期別の施設整備計画を設定する。なお、観光拠点形成に係る施設整備は1次ネットワーク形成と時期的な整合を図る。

ネットワーク	施設整備の基本的な考え方		
1次 ネットワーク	1次整備	1期整備	・「忍の里プララ」において、甲賀流忍者や甲賀武士等の史料展示を行うとともに、甲賀市の観光施設等の展示・紹介を行えるよう改修整備を行う。 ・「忍の里プララ」内の喫茶軽食コーナーと連携した甲賀流忍者紹介の中核施設のエントランスにふさわしい賑わいのある正面玄関テラスを整備する。
		2期整備	・「忍の里プララ」がリアル甲賀流忍者紹介の中核的施設であることを示すための外壁ラッピングや来訪者のため「忍の里プララ」内のトイレ改修整備を行う。
	2次整備	・「忍の里プララ」敷地北側に立地する古民家やその周辺の空閑地を活用し、甲賀流忍者を体験・体感する整備を行う。 ・「忍の里プララ」敷地内の空閑地を活用して、忍者ショー等が楽しめるアミューズメントエリアを整備する。 ・イベント時における賑わいのある屋台空間として、にんにん横丁を整備する。 ・施設周辺地区内における空き家等を活用した新たな忍者関連施設や店舗等の整備を推進する。 ・車利用の来訪者増を勘案し、施設周辺において駐車場の拡大を検討する。 ・貴生川駅周辺や甲南駅周辺の観光案内機能の整備を図るとともに、レンタサイクル貸出施設の整備を推進する。	
2次 ネットワーク	・日本遺産構成文化財の周辺における駐車場やレンタサイクル駐輪場の整備を推進するなど、拠点施設来訪者の日本遺産構成文化財回遊環境の整備を推進することにより、拠点施設来訪者のリアル甲賀流忍者に関する知識欲を満たすネットワークを構築する。		
3次 ネットワーク	・市内観光施設や飲食店周辺における駐車場やレンタサイクル駐輪場整備を推進するとともに、特色ある物販店や飲食店等の新規立地を推進するなど、拠点施設来訪者の甲賀市内全域の回遊環境の整備を推進することにより、市内の観光施設等の活性化を促進する。		

③ 整備スケジュール

全体整備時期を、短期・中期・長期と区分し、1次ネットワークは短期・中期の期間に形成する。また、施設整備についても1次ネットワーク期間と整合を図ることを基本としつつも、構想策定期間や財政事情等も考慮する必要があることから、施設の1次整備は2020年7月ごろの供用開始を目標とし、施設の2次整備は中期を目標としつつ長期にかかることも想定する。

なお、2次・3次ネットワークは基本的に中期、長期の期間内で形成を図るものとするが、期間に縛られることなく日本遺産所有者・管理者等との十分な協議を進めながら形成を図るものとする。

【図 期別整備のスケジュール】

項 目		短期			中期	長期
		2018年度	2019年度	2020年度 目標	2021～2024年度	2025年度～
1次ネットワーク形成	観光拠点整備基本計画策定	→		7月		
	基本設計・実施設計(1期整備範囲)	→				
	「忍の里ブララ」及び周辺改修工事(1期整備)		→			
	実施設計(2期整備範囲)		→			
	「忍の里ブララ」改修工事(2期整備)			→		
	展示空間整備(展示設計・施工)		→	→	→	→
	貴生川駅・甲南駅の観光案内機能の整備		→	→	→	
	基本設計・実施設計(2次整備範囲)			→	→	
	古民家及び周辺整備				→	→
	地区内の山城跡整備				→	→
	「忍の里ブララ」周辺駐車場の整備(検討)				→	→
	「忍の里ブララ」周辺地区の整備				→	→
2次ネットワーク形成					→	→
3次ネットワーク形成						→

(3) 施設整備の基本方針

① 1次整備の基本方針

1次整備は、「忍の里プララ」を忍者観光の拠点として整備するとともに、リアルな甲賀流忍者、日本遺産構成文化財を学び知る、また楽しさを発見することができる展示を行うことにより、地区内や市内の既存施設での史料見学、体験へと誘導する。

また、施設周辺地区においては国内外からの来訪者の往来が増えることから、住民の理解を得られるように働きかけを行っていくものとする。

基本方針1 甲賀流忍者の特性を理解できる拠点をつくる

○本物を展示する

- ・来訪者にリアルな甲賀流忍者の姿を伝えるとともに、地元が忍者に対する認識を新たにし、忍者を誇りに思うような資料展示を中心に行う。

○ビジュアル資料の多用

- ・甲賀流忍者史料、中世城郭（山城）など、本物を展示することをはじめ、来訪者が理解しやすいようにレプリカ、模型等を活用するとともに、映像やマンガ・アニメ等を駆使して来訪者がリアル甲賀流忍者を知ることができる拠点をつくる。

○インバウンドへの対応

- ・甲賀流忍者の拠点情報を国内外に発信し、多くの来訪者にリアル甲賀流忍者の姿を知ってもらう拠点をつくる。

基本方針2 既存施設と連携し、よりリアルな忍者史料、体験を欲する拠点をつくる

○地区内及び市内既存施設との連携

- ・リアルな甲賀流忍者を学び、知ることができる展示を整備し、さらに「忍の里プララ」周辺や市内の既存忍者関連施設との連携を深めることにより、既存施設での史料見学、忍者体験を行うきっかけを与える。
- ・また、甲賀流忍者の日常生活等を啓発するなど、よりリアルな甲賀忍者を紹介することにより、甲賀流忍者をより身近に感じることができる拠点をつくる。

○来訪者による情報発信の活用

- ・家族、友人等と共有したくなるような忍者関連情報や市内観光情報を提供することにより、来訪者がSNS等で情報を拡散することを期待し、リピーター創出や新たな来訪者の誘致を図る。

基本方針3 来訪者と地域との交流を促進する拠点をつくる

○地元との交流機会の増大

- ・竜法師地区をはじめ市内の忍者関連資源、観光資源の情報を提供し、多くの来訪者が観光資源等を通じて地元住民と交流する機会を増やす。

○地元住民、市民との連携強化

- ・来訪者と施設周辺地区内の住民や市民との連携強化を図るきっかけとし、地元による来訪者の受け入れ意識醸成のための研修会やイベントなどに積極的に活用できるよう施設を整備する。

② 2次整備の基本方針

2次整備は、「忍の里プララ」に隣接する空地等を活用し、忍者体験施設の充実を図る。

また、施設周辺地区とのネットワークをより充実し、拠点施設来訪者を既存歴史文化・観光施設等にも回遊させることにより地区の活性化を図るものとする。

基本方針1 リアル忍者体験施設の強化・充実を図る

○体験施設の充実

- ・「忍の里プララ」に隣接する空地や古民家の活用を図り、甲賀流忍術学校の開校などリアル忍者体験施設の充実を図る。

○リアル忍者遺産の整備

- ・「忍の里プララ」周辺に残る山城跡周辺の整備を図り、甲賀武士の存在と生きざまを肌で感じられるようなエリアの創出を図る。また、「忍の里プララ」の南側、新名神高速道路の近くにも山城跡が多く残っていることから拠点施設を中心とする散策ルートの設定なども検討する。

基本方針2 集客力向上を図るための機能の導入及び駐車場の拡大を検討する

○アミューズメント機能の充実

- ・「忍の里プララ」の2階部分には、リアルな甲賀流忍者の啓発機能の拡大・充実を図るとともに、来訪者需要を満たすアミューズメント機能の導入を検討する。

○車利用の増加に対応

- ・利用者の増加状況を勘案しながら、「忍の里プララ」周辺における新たな駐車場を整備することを検討する。

基本方針3 民間企業等との連携を図り、観光客の受け入れ体制を構築・強化する

○民間企業等による施設運営の促進

- ・2次整備エリアにおける施設整備・運営については、民間企業等の参加を促進する。

○民間企業等による忍者関連新規施設立地の促進

- ・民間企業等による拠点施設周辺における新しい忍者関連施設や店舗等の整備を進めるため、都市計画の見直しなどを行うとともに、民間企業等のもつ施設やイベントの運営に関するノウハウの活用を図る。

○施設周辺地区内における回遊性の向上、環境の改善

- ・観光拠点来訪者が、迷うことなく施設周辺地区の歴史文化資産や忍者関連歴史資源を観光できるよう、地元の意見等も踏まえながら回遊路を設定するとともに、観光案内板等の整備を図る。

(4) 導入施設の設定

① 1次整備

1次整備計画は「忍の里プララ」を活用して甲賀流忍者に対する理解を深める機能の強化・充実を図り、甲賀市への観光来訪客の拡大を図る。

また、東京オリンピック・パラリンピックの応援や見物にやってくるインバウンドや忍者に関心を持つ外国人を拠点施設に誘引し、甲賀流忍者の拠点地区を国内外にアピールする。

【基本方針】

【導入施設等】

基本方針1

甲賀流忍者の特性を理解できる拠点をつくる

○日本遺産及び市内観光案内展示コーナー（1階ホワイエ部分）

・日本遺産「忍者」構成文化財についての紹介や市内観光案内展示コーナーとし、来訪者が市内の日本遺産構成文化財やその他観光資源を巡りたいと思わせることに主眼を置いた展示計画を策定する。また、より内容が分かりやすくなるように、映像・音声による解説コーナーの設置も検討する。

○甲賀流忍者の特性を生かした土産物等販売コーナー

・甲賀流忍者の特性を生かした土産物、軽食などを提供する。例として、守護神である「摩利支天」が「除災増益」や戦いの神様であることに因み、受験やスポーツの試合などに勝つお札としてのグッズ販売を行うなどを検討する。

基本方針2

よりリアルな甲賀流忍者史料を学び、体験することができる拠点をつくる

○忍者史料展示コーナー（2階ホワイエ部分）

・甲賀流忍者の歴史を掘り下げ、リアル忍者の啓発を行っている団体・市民等の顕彰を行うとともに、その活動内容や団体・市民等による甲賀流忍者に関する研究成果を展示・紹介するコーナーをつくり、よりリアルな甲賀流忍者の啓発機能の強化・充実を図る。

○「忍の里プララ」外壁のランドマーク化

・「忍の里プララ」外壁を利用し、リアル甲賀流忍者啓発拠点としてのランドマークの創出を図る。
・新名神高速道路PAの近くに甲賀流忍者をテーマとした歓迎塔を整備し、甲賀流忍者を知り、体験できる拠点の存在を啓発することを検討する。

基本方針3

来訪者と地域との交流を促進する拠点をつくる

○総合観光案内所兼事務所（機能整備）

・既存及び新規忍者イベントや市内観光資源等を紹介し、市内周遊のためのレンタサイクルの貸出など観光案内兼事務所機能の強化を図る。
・多目的ホールなど「忍の里プララ」の基本施設の運営にかかる事務と併用する。

○正面玄関テラス

・エントランス部分を活用した休憩・飲食施設を整備し、拠点の玄関口の賑わいを演出する。
・バスやタクシーを利用する多くの来訪者の施設への円滑な寄り付き機能の充実を図る。

② 2次整備

2次整備計画は、1次整備計画の実施結果を踏まえつつ、「忍の里プララ」周辺地区や市内観光におけるリピーターの創出、新規来訪者数の増加を図るための施設整備を推進するとともに、より地元に着したリアル忍者の紹介機能の充実を図る。

【基本方針】

【導入施設等】

基本方針1

リアル忍者体験施設の強化・充実を図る

○古民家の活用

・江戸時代に建てられた古民家を活用し、忍者の講義やイベントの開催など、忍者学校の校舎として活用する。

○にんにん広場の整備

・甲賀流忍術学校の体験エリアとして整備するとともに、来訪者の散策・休憩エリアとしても整備する。

○山城跡の整備

・「忍の里プララ」周辺の山城跡である「饗庭城」をテーマに、甲賀武士の息吹を体感できる場を創出し、甲賀流忍者だけではなく甲賀市の魅力を発信する。

基本方針2

集客力向上を図るための機能の導入及び駐車場の拡大を検討する

○にんにんアミューズメントエリアの整備

・忍者ショーなどを実施できる芝居小屋や手裏剣投げなどの忍者体験ができるようアミューズメント性の高い施設を「忍の里プララ」周辺に整備する。

○にんにん横丁の整備

・にんにんアミューズメントエリアにおけるイベント開催時の賑わいを創出するため、和風建物の軒先で飲食するイメージを出した屋台通り（キッチンカーの乗り入れ検討を含む。）を整備する。

○「忍の里プララ」2階の部屋の活用（検討）

・1次整備の対象外となっている2階の部屋部分について、1次整備の内容に対する来訪者の反応や評価等を踏まえ、アミューズメント機能の導入や甲賀流忍者史料の拡大展示など、来訪者の甲賀流忍者への関心をより高める施設整備を行い、集客力の増大を図る。

○駐車場の整備（検討）

・利用者の増加に対応するため、「忍の里プララ」周辺に新たな駐車場を整備することを検討する。

基本方針3

民間企業等との連携を図り、観光客の受け入れ体制を構築・強化する

○民間企業のノウハウの活用、新規立地の促進

・古民家の活用やアミューズメント機能の導入等、また施設周辺の新規施設の立地について、導入機能の検討、イベント企画、施設の運営など民間企業の知恵やノウハウの活用を図る。

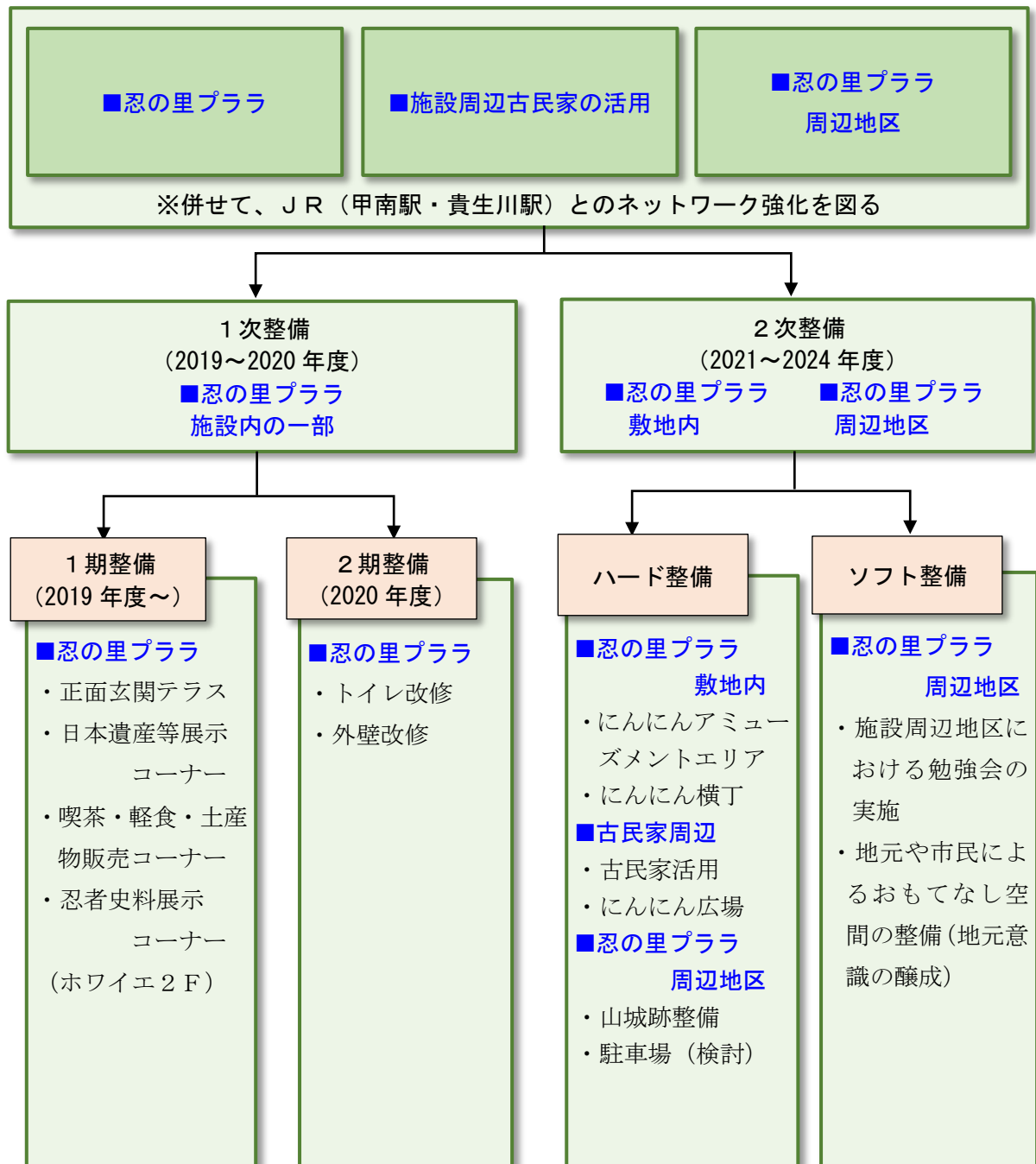
○「忍の里プララ」周辺地区における回遊性の向上、環境の改善

・地区住民の協力の下、観光客の回遊性向上に資する観光案内板等の整備を検討する。

③ 1次ネットワーク形成における段階的な整備のフロー

施設周辺地区の歴史文化遺産の情報発信や地元住民との交流など、施設周辺地区とのネットワーク形成を図ったリアル忍者を知る拠点を創出するための1次ネットワーク形成期間における段階的な施設整備フローを以下に示す。

【図 段階的な整備のフロー図】



注) 1 「忍の里プララ」の展示空間については、甲賀流忍者史料の収集状況や来訪者の動向、施設利用者の動向等を勘案の上、部屋の用途変更、増床等を検討する。

注) 2 「忍の里プララ」周辺地域における意識の醸成は、1次整備段階から地元に働きかけを行う。